

学会誌 第30号の「索引」の「正誤」と…

伊藤 全¹

日本獣医史学雑誌30号 p35-118 (1993) 正誤表

	修正後の記載	誤記載など
p51右↑11行	臨床経験	臨床試験
p58右↓9行	臨床経験	臨床試験
p69右↓6行	舊唐書	旧唐書
p75左↓23行	兼松満造 カネマツ・ミツゾウ	1901-1981.7 [事典: マンゾウ?]
p76右↓24行	臨床経験	臨床試験
p76右↓4行	-- 正芳	1901.11-78.9.30 [事典: 没年誤記載]
p81左↓15行	-- 政宗	-- 正宗
p83右↓17行	仁田 直 ニッタ・ナオシ	1874.3.9-1936.1.23 [事典: ニッタ・ナオ]

20年ちかくも前のものを今さらの感もあるが、「日本獣医学人名事典」発刊以来、気になっていたことを少しでも良いほうに向けるには、こういう方法しかなさそうに思うので、敢えて投稿の形をとることにした。

発端はこの事典関係の諸問題であり、編纂委員の一人が執筆した「事典」41頁の記事の誤りの多さと、その正誤表の記載方法のまずさから「事典編纂委員会」が正常に機能していなかったと考えざるをえない。

「仁田直」関係記事 (p119) について、私の経験を簡単に記すと次のとおり。

多磨墓地の事務所発信と思われるネット情報が、原稿になっていることを知って改名の可能性も考え、個人情報保護の壁はあったが、御本人の孫の方に連絡できた結果、やはり家畜衛生試験場報告によった「索引」の記載が正しかった。執筆者から「委員会」に連絡したと聞き、安心していただけ、最初原稿の間違いがそのまま印刷されていた。

仁田氏については、「索引」にも誤りがあり、その原因は私の早合点で5月1日印刷の「獣醫畜産年鑑 1936」p265の×印とp371の注記を読み誤っていた。

上に掲げた「正誤表」で、「臨床経験」の3件は、「索引」印刷後唯一の指摘なので加えたが、もとの印刷は「試験」で、本来なら正誤に加えぬ筋のもの。他の5件は

ITO Tamotsu: It's never too late to mend.

1. 日本獣医史学会名誉会員 連絡先: 伊藤 全 〒179-0072 東京都練馬区光が丘7-7-6-401
(2010年12月7日受付)

すべて私のみつけたものである。

「索引」の作成者は英語でしか記載していないが、当時の雑誌編集委員会で委員として載っている14名のうちなん人の方だったか、少なくとも5名以上の方には清刷り用原稿(A4)のコピーを3回は配布した。その結果として指摘をいただいたのは10件以内でしかなかった。当時のコピー代はページ当り10円だったから $84p \times 5 \times 3 = 1260p$ 以上のコピー代に見合った成果とは言い難い。

だからといって、「索引」にこれ以上に誤りが無いとはいえず、今後とも誤りは訂正していきたい。その後、コピー代は半額ていどになっているし、メールなどを使えば、刷り上がりから推定して200pたらずの校正は効率的にできたはずである。

「索引」と「事典」を比べれば、後者の作成作業のほうがはるかに難しいのは予測できたはずだが、結果として後掲「正誤表作成用たたき台」にみるように問題点の多いものができてしまった責任は、誰が負うのだろうか。疑問点につき執筆者に問い合わせるつもりで連絡先を聞くと、分からないとの返事。

「索引」にも私なりの不満がある。印刷技術の拙劣さとp39の中扉の位置が原稿と違っていたことについて、印刷屋から一言の連絡もなかった。今後この印刷屋とのお付き合いはお断り、と宣言したものである。

誤謬の流布はおそろしい。一例として、山脇の「日本帝國家畜傳染病豫防史」の場合をこの稿末尾に付すが、その波紋の広がり甚だしさをみるのがよい。在籍中の試験場報告掲載の報告の著作権は発行者にあるはずなのに、執筆者に許諾を求めてくる現今の著作権にも、問題は多いと私は思う。

上記のような欠陥印刷物の内容を、そのままネットにのせてしまったことも問題だが、人間は間違いを犯すもの。無知・思慮不足・連絡欠如などに端を発した事件がもとで喧嘩別れなど、まことに大人気無いと思わないのだろうか？ 事件の詳細を知らぬ私が、ある編集委員に提案をしてみてもから1年はたったが、動きはなにもなく、9月末に旧友に書いた手紙にもまともな返事がきていない。

「索引あとがき」に「私の最後の仕事になるかも」と書いてから、すでに17年、幸い他誌の索引作成もなん種類か経験したが、コピーでいただいた日本獣医史学研究会報の創刊号(1972)に驚いたとき以来の困惑とでも言うべきだろうか。亡くなられた添川元理事長に合わす顔のなくなった事件の後始末はつけておきたいものと思う。

私の漢和韓越字典瀏覽(2002・2007)は「売る」つもりのなかった代物で、2002年版には正誤表を作ったものの配布が不十分。2007年版にも作りかけたが、体調不良のため諦めた。最後に、この稿が私の遺言にならぬよう祈るばかりである。

(2010.11.19)

人名事典正誤 2008-2-6+2010.11.7 正誤表作成用たたき台 (以下3p既出を若干修正)

ページ	氏名	字典記載	不一致記載など	索(学会索引)・場(家衛試)注
015	池田三義	IKEDA Mitsuyoshi	IKEDA Miyoshi	場
016	池本安夫	傍正中線	傍正中線	
017	石井進	EIA	おかしい	せめて「伝賃」
018	石川千代松	Goldshimidt	Goldschmidt, Richard Benedict(1878-1958)?	
024	市川収	ICHIKAWA	ITIKAWA	場 トリノ大學?
031	宇田川榕菴	(国書総目録:庵)詞経	詞経	
034	江本修	享年79歳	享年59歳(1886-1945)	
035	〃	まするです」	(徳島弁)?	
038	大澤竹次郎	BNA	Basle Nomina Anatomica(1895?)改定?	
042	奥田金松	OKUDA Kanematsu	OKUDA Kinmatsu	場
059	北里柴三郎	KITASATO	読みは「きたざと」のはず	添川
066	黒瀬貞次	病馬厩	陸軍獣医部史OK	
072	小林正芳	~1979	~1978(9月)享年?	索
076	近藤正一	[文献]	獣疫調査報告書もある	場
076	西郷従道	Judo	Tsugumichi	
103	丹下謙吉	トゥルスソル	トゥルスソル or ツルスソル?	
104	椿精一	国連の	[削除]ほかにも疑問点あり	
110	徳川綱吉	病馬厩	病馬厩ではないらしい	陸軍獣医部OK?
113	中村哲哉	Tetsuya	Norichika	場
015	中村洋吉		獣医学史 イテロンク?	
119	仁田直	NITTA Sunao	NITTA Naoshi	場 御遺族
126	平戸勝七	1903-	1904生	索
128	深谷周三	病馬厩 厩長	陸軍獣医部史OK	
131	二村彦二郎	現職在任中	(中国支場長在任中?)	
133	星修三	獣医学科を	実科?	
135	増井清	ゴールド・シュミット	ゴールドシュミット	
141	村瀬信雄	釜山の獣疫調査所	?	
144	柳澤銀蔵	享年86歳 白耳義	? ベルギー?	
147	山根定吉	~1990	1989.12.3	索
149	山内亮	YAMANOUCHI	YAMAUCHI	場
151	與倉東隆	芝三田…駒場(152)測	? 淵	
154	吉村晶吾	[経歴]2行目:鹿児島支場	九州支場	
158	フロイス	バテレン(宣教師)など	?	
159	ゲーリック	Hayagriva:The	Hayagriva: The	
160	ヤンソン	ヴィルヒョウ Adam	フィルヒョー(生物学辞典) Adams	
161	KAMPHER		KAEMPER	索
162	ケイゼル	[参考文献] Agros...	(記載法ひどすぎる)	
163	劉経先		(字体など)	
163	McBRIDE, John Adam		McBRIDE, John Adams	索
164	シーボルト	ビュルツブルグ	Würzburg すくなくとも「ツ」ではない	
		SIEBOLD, Philipp Franz Jonkheer	Balthasar von(生物学辞典下線部なし)	
165	ツェンペリー	Systema Nayura	Ststema Natura?	
166	池田錫	IKEDA Tamou	タマウ?	
167	鶴上三郎	ヴァイタミン	ヴァイタミン?	
167	蒲池五四郎	KAMACHI	KAMOCHI	索

その他の疑問点など 2008-2-6+2010.11.12若干修正
 亡くなった人だけ 選考方法
 明治6年(1873)1月1日以前の月日 陽暦 or 陰暦
 西暦≠日本年号 すべての年の二重記載は疑問(とくに文献)
 行数の かぞえかた
 生没年月日記載の不揃い 享年? 没年齢の正確さ
 事故死 西川あり 杉浦なし
 文献など記載の不揃い 記載法の不統一
 姓名のラテン文字表記・漢字書体 Itikawaが多い
 職歴で「初代」の記載 機関・職名の変遷
 細菌名などの表記など
 -の使い方?

記述に加えたい事項など

067	栞原 栞=桑の俗	学会誌・会員名簿では桑原
078	逆瀬川貞幹	GARIOA; Quarterly; 獣医学雑誌など
099	田中丑雄	Zentralblatt(東独)?
104	椿 精一	牛流感ワクチン
105	椿原彦吉	1956? 英国等留学・口蹄疫
112	中村稔治	[経歴]1/2行の[]内? 外国人研修
121	野口一郎	北陸支場
130	藤原公策	フランス留学
133	星 修三	[経歴]記載順序おかしい
146	山極三郎	獣疫予防論 ローマ法王?
150	山本脩太郎	暗視野の細道 Syutaro もある
167	小澤温吉 Onkichi	Harukichi らしい
168	北野訓敏	カナダ・インドネシア
168	斎藤保二	オランダ留学
168	佐沢弘士	略歴の記載順? シリア
169	長畑寿賀男	畜産試験場総務部長? (畜試:1950.4~1961.12 農研)

入れるべき or 入れてよさそうな人(名簿など当たればゾロゾロ出てくる)

赤澤笹雄	芦沢広三	石井富士雄	井上綱雄	今井源四郎
上坂章次	梅野早苗	大橋正之助	尾形藤治	可児岩吉
河島俊一	岸 良一	北島三郎	北岡正見	久池井忠男
久米清治	昆野恒太郎	四条隆徳	荘保忠三郎	須川章夫
杉本正篤	高澤 寿	高橋三四次	田淵英一	鳥羽秋彦
長尾正徳	能美季一	林 昇	福島俊行	福所金松
保坂安太郎	堀尾正朔	松岡富次	松丸志摩三	松本 稔
三浦孝義	三浦道雄	南本実俊	宮入一雄	三宅三郎
村田昌芳	望月瀧三	矢島朝彦	山本文陸郎	油井岱治
横堀善四郎	渡邊 中	渡辺正太	渡 櫛 利夫	

(生没未確認を含む)

DeLong 関係記事

- ① 山脇圭吉：日本帝國家畜傳染病豫防史 明治篇 p7 獣疫調査所(1935)
1871年6月27日づけ 上海 ティ・ワイ・マクガワンの書簡
「インデロング貴下」あて訳文
明治4年6月7日太政官第276號 (法令全書4年245頁)
- ② 白井恒三郎：日本獸醫學史 p253 文永堂(1944.9)
「イシデロング貴下」 p251に「日本國外務省出張員」とあり
P268に引用文献として「山脇圭吉：日本帝國家畜傳染病豫防史、中央獸醫學雜誌
第46輯」とあり
- ③ 柳澤銀藏・田熊秀：日本獸醫學史. p31-80 のp52-53に「明治4年6月27日 米國上海
駐在領事ティ・ワイ・マクガワンから、我上海在留外務省出張官員イシデロングに
宛て、西伯利亞海岸に悪性家畜傳染病流行し、漸次蔓延して對岸日本へも傳搬す
るの情勢にある旨を、日本政府に傳達せられたいとの警告が來た。茲に於いて政
府は直ちに大學東校に對し、本疫に關する調査を命じ、明治4年6月7日太政官第
276號を以つて、其の豫防法を一般に頒布し以つて之れが豫防制遏の注意を喚起し
た。之れが吾國に於ける家畜傳染病豫防に關する法規の濫觴である。獸醫畜産年
鑑 1936. 現代之獸醫社(1936.5) 參考文獻(p80)に「山脇圭吉 日本帝國家畜傳染病豫
防史(中央獸醫學雜誌)」とあり
- ④ デ・ロング Charles E. De Long 生没年不詳 1989年(明治2)に來日し、73年まで
在任した。[以下略] 外交資料館で入手した資料(名称不明p620) 他の項目下にも記
載あり
- ⑤ 久米邦武編・田中彰校注：特命全權大使米歐回覽実記。(一) p80.「米ノ日本公使「デ
ロング」之ヲ國語ニ訳シ、〜」岩波書店(1977.9) 以下p89 米公使「デロング」氏、日
本ノ地理ヲ問ヒシニ、皆問ニ答ヘテ、一モ誤ラス、など
- ⑥ 日本獸医史学雜誌 第30号(1993.3)p89 / (人名)19
DeLong, Charles E. デロング 「岸 11:1 13:27 谷垣 13:45 16:46 19:30 20:42
21:37 23:46」(著者名 号数：ページ)
グレゴリオ暦：1871年6月27日 和暦：明治4年5月10日
1871年7月24日 明治4年6月7日 (2009.5.12：伊藤全)

2010.11.4加筆

- ① 法令全書 未調査
- ② 中央獸醫學雜誌 第46年 第4号 p343-355 (動物衛生研蔵書 コピーあり)
- ③ 岸氏學位論文 未調査

.....

朝 床の中で思いついたので「執筆要領」にしたがって原稿を作るつもりで始め
てみると昔のワープロと違い難しいことを発見。あきらめるわけにはいかないので
カーニング処理を解決できぬまま打ち込んでみることにした。当面の問題は私の
寿命、この目論見が完結するまでもつかどうか分からぬまま始めてみることにする。

(2010.11.6)